

12/6・19

市議会定例会

平成30年第4回常陸大宮市議会定例会が開会されました。この定例会では、次の議案（市長提出議案）の審議が行われ、それぞれ可決及び同意されました。

条 例

- ・常陸大宮市空家等対策の推進に関する条例
- ・下水道事業の地方公営企業法適用に伴う関係条例の整備に関する条例
- ・常陸大宮市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
- ・常陸大宮市指定地域密着型サービス事業者等の指定に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
- ・常陸大宮市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
- ・常陸大宮市美和農産物直売所の設置及び管理に関する条例を廃止する条例
- ・常陸大宮市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例

平成30年度補正予算

- ・常陸大宮市一般会計補正予算・特別会計（4会計）補正予算
- ・指定管理者の指定について
道の駅常陸大宮
- ・教育長の任命について
茅根 正憲さん

教育長に茅根氏

上久保洋一氏が12月24日付けで市教育長を退任され、茅根正憲氏（中富町在住）が12月25日付けで市教育長に就任されました。

退任あいさつ 上久保洋一



教育委員会での勤務が9年半となり一番長い勤務となりました。振り返ってみますと、学校統合、東日本大震災からの復旧、校舎の耐震化に終始した9年半だったと思います。その学校統合や耐震化も今年度で完了になります。学校教育では、教員の人材育成に力を注いでまいりました。教諭では一人の療養休暇者もなく、子どもたちの教育にあたって頂いています。これは県内44市町村でも稀有なことであると評されているところです。学習や運動の分野では、過去の栄光を取り戻すことができるよう激励し、部活動では、毎年関東大会に出場するなどかつての栄光を取り戻しつつあります。また、社会教育では、国体の準備や文化の面で一歩進めることができたと思います。これまで、市民の皆さんのご協力やご尽力のお陰で多くの事業を推進することができました。謹んで厚くお礼申し上げます。

就任あいさつ 茅根 正憲



このたびの教育長拝命につきましては、地方教育行政法において、教育行政の責任体制が明確化された中、その責務を十分に感じているところです。そして、気持ちも新たに、本市の定められた教育大綱を基本として、行政・学校・地域などの連携を図りながら、教育の推進に努めてまいり所存でございます。

本市は、合併して15年を迎えるところですが、これまで、本市の教育推進については、「郷育立市」を掲げまして、教育振興基本計画を策定し、各種事業の展開を図ってこられました。今後も事業を推進する上で課題等があるかと思いますが、学校教育、社会教育、そして文化・スポーツそれぞれの分野で「郷育立市」を理念とした教育振興ができますよう、これまでの経験を活かして、全力を尽くしてまいります。皆様のご協力・ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

11/15 市スポーツ推進委員表彰

市スポーツ推進委員の相田仁史さんが、第59回全国スポーツ推進委員研究協議会鹿児島大会で30年勤続の表彰を受けました。相田さんは平成元年に山方町体育指導委員に就任して以来、市のスポーツ振興に貢献されてきました。



▲おめでとうございます

12/6 生田目翼選手が表敬訪問

今季のドラフト会議で北海道日本ハムファイターズから第3位で指名を受け、入団契約をした本市出身の生田目翼選手が三次市長を表敬訪問しました。生田目選手は本市から初のプロ野球選手になります。「1年をとおして1軍で投げられるように頑張りたい」と意気込みを語りました。



▲頑張ってください！

11/27 市認証特産品「常陸大宮さん(産)」新たに2品目が追加

市特産品「常陸大宮さん(産)」認証制度では、今年度新たに2品目の追加認証を決定し、合計48品目となりました。常陸大宮市農産物等地域ブランド認定制度・6次産業化推進協議会で認証適否の審査を実施し決定・発表しました。

《本年度認証品》

ほりえ農園の紅はるか

ほりえ農園（小舟地区）が自家栽培したさつまいも「紅はるか」を厚さ9mm以上のカットにこだわり、肉厚なまま乾燥させることで、ねっとり凝縮した甘さに仕上げた干しいもです。丸干しはもちろん平干しも大満足の食べごたえです。



▲とてもおいしそうです

奥久慈桜

JA常陸大宮地区枝物部会の奥久慈の花桃に続く、奥久慈ブランドの枝物第2弾。年内咲きの桜として、正月用花材として多く使われています。枝物部会では使う人のニーズに合わせて出荷調整をしているため、市場から高い評価を得ています。



▲可憐な奥久慈桜

お詫びと訂正

広報常陸大宮12月号まちのできごとで、かやぶき古民家のミニチュア制作は実物の3分の1の大きさとなっておりますが、正しくは30分の1でした。お詫びして訂正します。

11/11・12 小場城跡保存隊

小場地域の「小場城跡保存隊」(寺門一夫隊長) 34人が友好都市協定を結んでいる秋田県大館市で研修視察を行いました。小場城跡保存隊は小場城跡を保存しようと3年前に地域住民で結成し、年に7回の草刈りや落葉の清掃などを行っています。

「小場氏ゆかりの地」として大館八幡神社・部垂八幡神社・遍照院・一心院・宗福寺等を見学し、改めて歴史的つながりを感じました。小場城は大館城代となった小場氏の出身地であり、江戸時代にも大館から前小屋氏等が訪れるなど、歴史的つながりを持っています。寺門隊長は今後とも城跡の保存に努め、大館との交流を深めていきたいと語りました。



▲小場城跡保存隊の皆さん

11/4・11 発達障害について知ろう

発達障害のことをもっと知ろう講座(主催:社会福祉協議会、茨城県水戸生涯学習センター、後援:教育委員会)が開催されました。2日間で延べ150人以上の方が受講され、発達障害のある人への支援について学びました。本市には、障がい者に関する相談機関として、障害者基幹相談支援センターが設置されています。

■問い合わせ■
障害者基幹相談支援センター ☎58-5015



▲皆さん熱心に受講していました

11/27 市災害対策本部設置及び運営訓練

警察、自衛隊から9人の参加をいただき、市職員を含め約50人で平成30年度市災害対策本部訓練を本庁舎会議室で実施しました。昨今、南海トラフ巨大地震等の予測や温暖化による異常気象が懸念されていますが、昨年7月の西日本豪雨災害や9月の北海道胆振東部地震災害が発生し、本市でも大規模な災害が発生した場合の迅速かつ確実な対応が求められます。そのような場合に備えて訓練を実施して、市関係職員が災害対策本部の具体的な活動要領を疑似体験するとともに、災害時の危機対応能力を高めることを目的としました。



▲情報収集に努めます

訓練は、台風が接近している中、訓練当日朝に大規模な土砂災害が市内の各地域に発生したという想定で、午前9時に災害対策本部を設置し、警察・自衛隊と連携しながら、情報の収集・整理から応急対策の検討をしました。午前10時から災害対策本部会議を開催し、本部長(市長)に被災状況等を報告して、本部長が災害対策の重視事項を指示するまでを訓練として実施しました。訓練終了後、検討会を実施し訓練参加者から活発な意見が出されました。今後の市の防災体制等に反映させるとともに、継続的に訓練を実施することの必要性を感じた訓練でした。



▲災害対策本部会議の様子

11/24 雪村ウォーク

室町時代の水墨画の巨匠・雪村の生誕地を巡る「雪村ウォーク」(主催:雪村顕彰会)に、県内各地から会員や市民等約60人が参加、約8.5kmを歩き雪村に思いをはせました。参加者は農村環境改善センターで富山会長の「雪村ミニ講座」を受講して出発。下村田の「観音様」と呼ばれる祠前では、富山会長が「このあたりが福聚寺跡、雪村屋敷跡と推測」と解説。「雪村筆洗いの池」での記念撮影後、訪れた「誕生寺」(上岩瀬)では、同寺に伝わる福聚寺の「過去帳」を示しての永徳住職の解説に、参加者は身を乗り出して聞き入っていました。



▲「観音様」で富山会長の解説を聞く参加者

11/24 ホタル保全活動

市温泉施設「すこやかランド・三太の湯」前を流れる深申川で、ホタル等の保護活動が行われました。この付近には以前、多くのホタルやカジカガエルが息していたそうですが、最近はその数も減少しており土砂の堆積も影響していると考えられることから、今回の土砂浚渫箇所から下流にかけて生息しているホタル及びその餌となるカワニナの保護活動を行ったものです。当日は、山方地域の魅力ある地域づくりを考えるなかまの会(小林昭会長)の会員のほか、地域おこし協力隊員の松原隊員や市職員が参加しました。ホタルの幼虫やカワニナ約700匹を採取して、上流の川へ移動放流しました。



▲参加した皆さん

11/27 応急復旧に関する協定を締結

大規模災害時の被害拡大防止及び応急的な復旧を目的として常陸大宮市建設業協会及び常陸大宮市北西部建設業組合とそれぞれ「災害時における応急復旧に関する協定」を締結しました。この協定締結により、地震、風水害等により道路、橋梁等の施設が被災した場合や障害物の除去に市からの要請に応じ早期応急対策並びに応急復旧が円滑に行われ、生活の早期安定が図られることとなります。今後も更なる防災対策の充実と市民の安心・安全の確保に努めていきます。



▲左から森嶋会長、三次市長、桑名会長

12/1 きらきらステーション

きらきらステーション～サンタの里からプレゼント～点灯式が開催されました。JR水郡線山方宿駅から神奉地児童公園までをイルミネーションで飾り、夕暮れの中でのイルミネーション点灯時には、多くの人々が幻想的な光に包まれました。式典後に行われたミニライブでは、多くの観客がたくさんの拍手を送っていました。イルミネーションは、2月28日まで点灯していますので、ぜひご覧ください。



▲山方中学校吹奏楽部の演奏

12/1

駅前シャッターアートプロジェクト

市内で活動するあきない組と市内在住の画家、寺門由紀さん、地元小学生による常陸大宮駅前シャッターアート第一弾が完成しました。これはシャッターが下りたまの店舗が増え、寂しくなっていく旧道沿いを明るくするため、シャッターに絵を描き、華やかさと地域を活性化する目的で行われました。今後、この活動を広げていく予定だそうです。



▲左からハートが愛・ぬくもり・いとおしさ、星は光・輝き・希望、水は自然・川・うるおい、緑（四つ葉）は、緑・自然・芽生え、というコンセプトだそうです

12/2

かがやきまつり

第13回かがやきまつりが市総合保健福祉センター「かがやき」で開催されました。

保健衛生功労者表彰式典では、地区（域）健康づくり推進協議会連絡会の委員として、市民の健康づくりの推進、啓発活動を積極的に取り組んだとして、上久保良三さん、佐藤晃さん、阿久津勝之さん、川澄多喜男さん、木村利男さん、鈴木清さん、関博司さん、石澤好文さんが表彰されました。



▲受賞された皆さん

12/2

ひたまる先生会ワークショップ

ひたまる先生会ワークショップが山方農林漁家高齢者センターで開催されました。

ひたまる先生会とは、自らの経験により培った知識や技術など豊富な企画力を持った方を「ひたまる先生」として登録し、あらゆる分野で活躍できる人材（市民）の育成と、市民一人ひとりの力を活かした地域社会づくり（まちづくり）に貢献することを目的として日々活動しています。

今回も多くのひたまる先生が様々な体験講座を行い、幅広い年齢層のたくさんの方でにぎわいました。参加者からは、「とても楽しかった」、「また参加



▲腹話術で楽しいひととき

したい」との声を頂きました。

参加者と先生の交流のほか、先生同士が交流する姿も見られ、つながりを大事にした、温かいイベントとなりました。ひたまる先生会では、市民の皆さんから講座開講の希望を随時受け付けています。また、ひたまる先生になってくださる方の募集も行っています。市ホームページに詳細がありますが、事務局へもお気軽にお問い合わせください。

事務局 市民協働課 市民協働グループ
☎52 - 1111（内線126）



▲民話カフェで民話を堪能しました

12/2

行政相談PR

行政相談委員が、かがやきまつりとショッピングセンターピサーロで、行政相談のPR活動を行いました。行政相談についてのチラシ配布や、市民の困りごとに耳を傾けるなど熱心に活動を行い、行政相談について理解を深めていただけました。行政相談とは、日々の生活の中での困りごとを、行政相談委員が身近な相談相手としてお聞きするものです。道路や側溝の補修などのご相談はもちろん、どこに相談していいかわからないという方もお気軽にご相談ください。



▲制度について丁寧に説明しました

12/9

国際交流フェスティバル

第9回国際交流フェスティバル～小さな出会いが作る交流の輪～（主催：市国際交流協会）が緒川総合センターで多くの方の来場のもと盛会に開催されました。ステージ発表では、有難亭良慈緒（鹿原徳夫）さんの落語や、海外出身者によるジャマイカダンス、小瀬高校や常陸大宮高校の吹奏楽の演奏などが披露されました。また、ランチタイムには本市在住の海外技能実習生が作る本場のインドネシア料理が振舞われ、海外出身者と市民の交流を深めることができました。



▲みんなで記念撮影

12/9

和太鼓フェスティバル

平成30年度常陸大宮市文化祭「第5回和太鼓フェスティバル」が、常陸大宮市友好都市である秋田県大館市『大館曲げわっぱ太鼓』の皆さんを特別ゲストに招き、盛大に開催されました。

曲げわっぱ太鼓の躍動感ある勇壮な演奏は、観客を魅了しました。また、出演した市文化協会6団体と市内3保育園等の出演者の皆さんも日頃の練習の成果を発揮し、会場に迫力ある太鼓の音を響かせました。



▲文化協会合同太鼓

12/6・11・14

永田茂衛門親子の功績を学ぶ

市内3校（大宮小・山方南小・大賀小）の小学4年生が、社会科の学習で歴史民俗資料館大宮館を訪れ、本市の偉人・永田茂衛門親子について学びました。水戸藩の三大江堰（辰ノ口江堰、岩崎江堰、小場江堰）を作った永田茂衛門親子らを長年研究されている野上平先生の授業のもと、親子の工夫や努力、そして当時使われた道具について学習しました。その後、辰ノ口堰や小祝の用水路を実際に見学し、当時の工夫が現在も活かされていることを知った児童たちは、大変驚くと同時に郷土の歴史について、さらに理解を深めた様子でした。



▲昔の人の知恵ってすごいね